

災害時の避難のポイント

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの災害時要支援者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

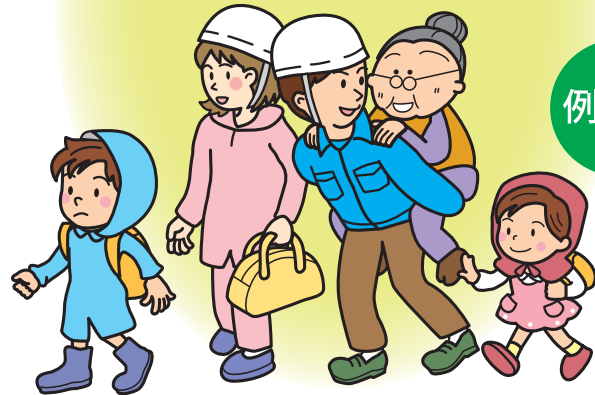
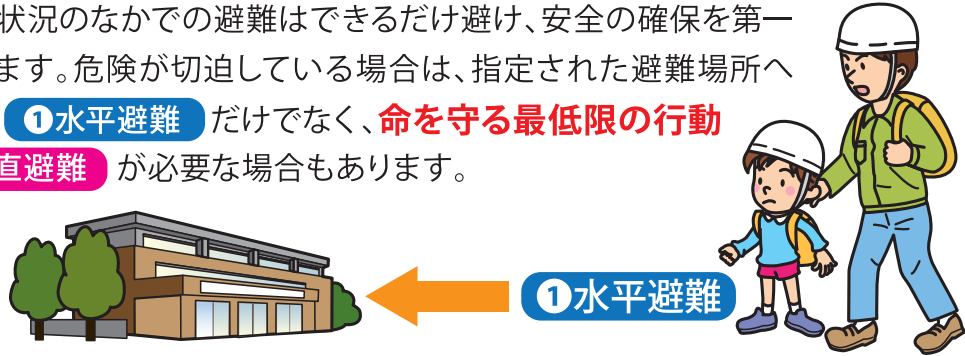
避難に対する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。

命を守る最低限の行動とは

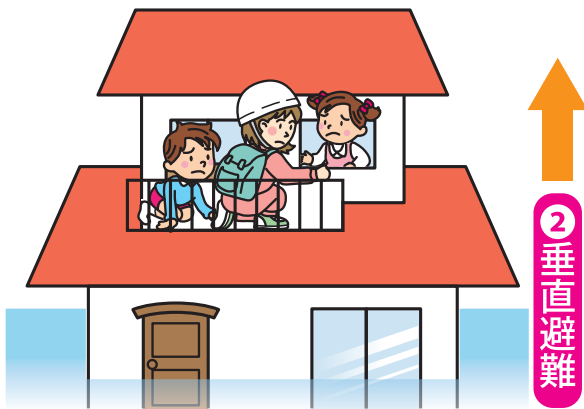
危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動 **①水平避難** だけでなく、**命を守る最低限の行動** **②垂直避難** が必要な場合もあります。



例えば

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
- 流れがあり、ひざ上まで浸水している (50センチ以上)
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある
- 津波が迫っていて、安全な高台に避難できない

②垂直避難 上記の場合、屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上 (土砂災害の場合は斜面と反対側の部屋) へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。



サイレンによる避難指示

志布志市では、避難指示等を早急に周知徹底するために、サイレンにより周知します。災害の発生する危険性の度合いにより、発表される情報は、高齢者等避難、避難指示の2段階に分かれています。災害から生命を守るため、避難に備える判断を心がけましょう。

サイレンに使用する信号			
段階	区分	内容	サイレン
1	高齢者等避難	災害の発生する恐れが高まっています。市からの放送や、テレビ・ラジオの災害情報等に注意してください。災害時要支援者等、特に避難行動に時間を要する方は、避難行動を開始してください。また、近所に一人では避難が困難な高齢者や子どもが居る場合、声を掛け合いながら、みなさんで避難の準備を始めてください。 ※状況により、チャイムでお知らせする場合があります。	5秒・15秒休止・5秒
2	避難指示	災害の発生する恐れが非常に高まっています。避難指示等の発令後で避難中の方は、直ちに避難行動を完了させてください。未だ避難していない方は、直ちに避難行動に移るとともに、その暇がない場合は生命を守る最低限の行動をしてください。	5秒・6秒休止・5秒

避難行動判定フロー

！ 警戒レベル3 高齢者等避難や**警戒レベル4 避難指示**が出たら、危険な場所から避難しましょう。

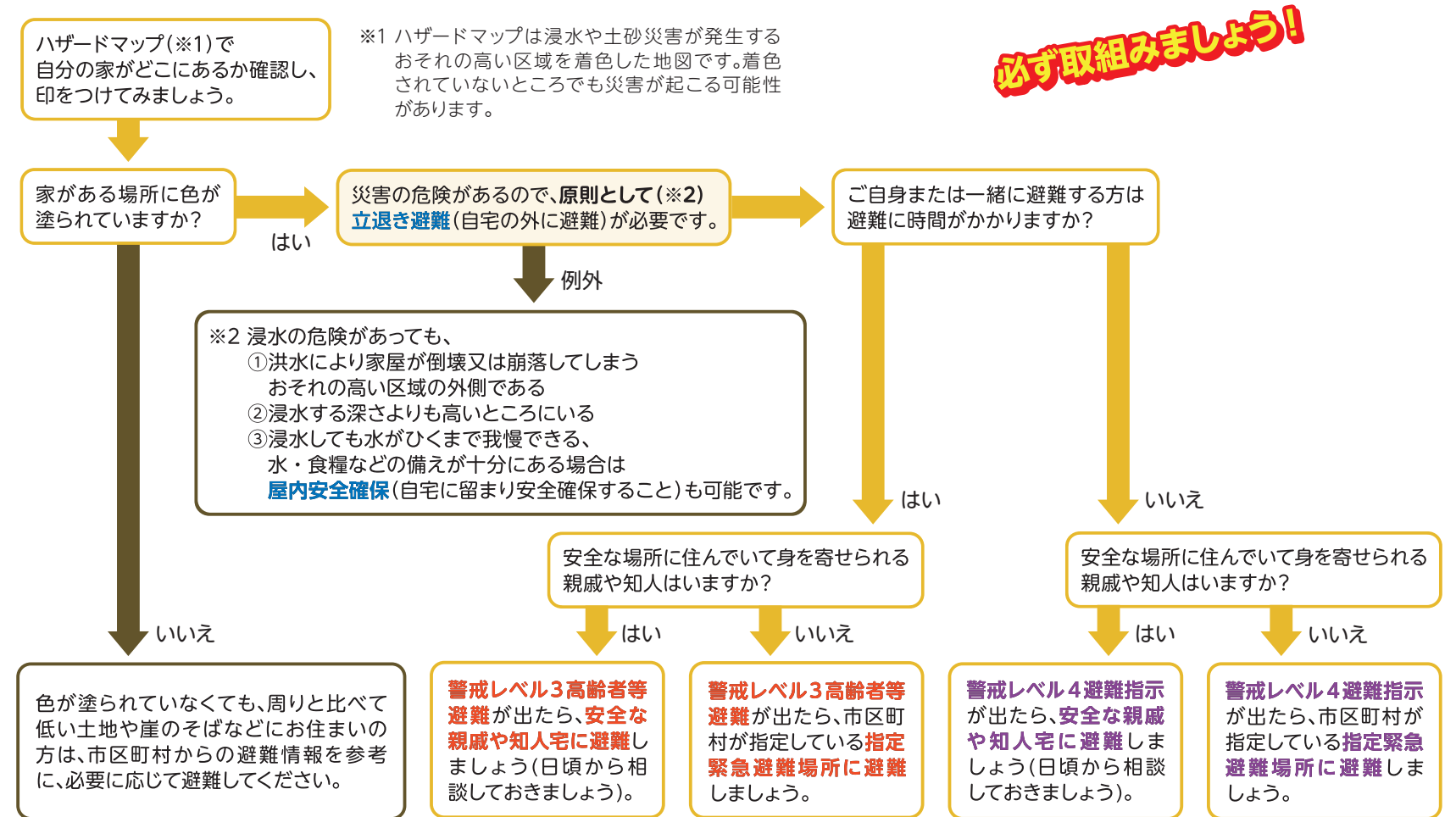
！ 避難とは難を避けることです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

！ 避難先は小中学校・公民館ではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

◆避難行動判定フロー

普段から確認 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。

●あなたがとるべき避難行動は？



自宅の外へ避難する際の留意点

！ 避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し袋はリュックサックに入れて背負う。(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に移動の際は懐中電灯を持つ。

！ 避難時のポイント

- 自宅を離れる前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 近所の人に声をかけ、複数人で行動する。
- 避難先へは、徒歩で移動する。(自動車、自転車はできる限り使用しない)
- 狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者がはぐれないよう配慮をしながら避難する。

上記は一般的な避難留意点です。各災害に応じた留意点も、個別ページでご確認ください。